

## 組織目標評価報告書(2019年度)

部局名: グローバル・ディスカバリー・プログラム

部局長名: 中谷 文美

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)					
①教育領域		教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組					
※教育領域に関する目標についてご記入ください。 1. 国内外の高校等に対するリクルート活動の継続やウェブサイトの充実を通じて、優秀な志願者の確保に努める。 2. 2021年度からの新たな入試の実施に向け、関連部署と連携し、準備と広報を行う。 3. 2019年4月・10月入学者の円滑な受け入れに向け、各種オリエンテーション・履修指導を着実に実行。 4. 国際入試を経て渡日する入学者に対して、関係部署と連携し、渡日前後の手続きについて十分なサポートを提供する。 5. 学生一人ひとりの学習状況を把握し、適切なアドバイジングやサポートを行う。 特に、学部・学科横断型マッチング・トラックに進んだ学生の学習指導を、各学部助言教員、卒業研究指導教員及びグローバル・ディスカバリー・プログラム教員との間で連携し、適切に行う。 6. 学年進行に伴い、開講科目の充実を図るなど、カリキュラムの円滑な実施に努める。 7. インターンシップ、留学中のサポートを行うとともに、さらなる派遣先の開拓に向けて、学生の受入が可能な企業や大学等の確保を引き続き行う。また、卒業後のキャリア支援に向けて、関係部署と連携し、サポートを行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>目標に関連する 年度計画の番号</th> <th>取組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24-2</td> <td>1. 広報・リクルートに関しては、台湾、タイ、マレーシア、韓国、インドネシア、フィリピン、ブルネイで開催された留学フェアに参加するとともに、アメリカや中国、インドネシアの高校等への個別訪問、岡山を訪問している海外の高校生への説明会、インターナショナルスクールでのカレッジフェアへの参加、国内18校等への個別訪問などの海外リクルート活動を行った。国内リクルートに関しては、入試説明会やオープンキャンパス、進学ガイダンスへの参加などを行った。その他、入試広報のため、ハワイやシンガポールの進学情報雑誌にプログラム情報を掲載した。また、英文ウェブサイトにも、教員や学生の声、授業風景などプログラムの活動状況が分かるよう記事を掲載し、充実を図った。その結果、国内入試はこれまで同様の出願者を集めたほか、国際入試(第1期)には、4月入学9人(出願倍率3.0倍)、10月入学23人(出願倍率2.3倍)、国際入試(第2期・10月入学)には62人(出願倍率3.0倍)の出願があり、合計で昨年より出願者が32人増え、4月入学及び国際入試(第2期・10月入学)の出願者は過去最高となった。</td> </tr> <tr> <td>50-2</td> <td>2. 2021年度からの新たな入試に関して、文系・理系の2種類に分けて募集・選抜することを決定し、入学者選抜方法の変更について公表(2年前予告)した。決定に当たっては、UAA(University Admission Administrator)の協力の下、県内SSH校(スーパーサイエンスハイスクール)を訪問し、理系志願者獲得のための情報収集を行った。変更に伴い、アドミッション・ポリシーを改正したほか、試験の日程や実施体制、科目等の具体的な検討を行い、ホームページなどで周知を図った。また、リーフレットや次年度の入試説明会チラシを作成し、これまでに出願のあった高校を訪問し、積極的な広報を行った。 3. 2019年4月・10月入学者の円滑な受け入れに向け、教務委員会及び学生支援委員会を中心に、これまでの反省事項を生かして種々検討の上、各種オリエンテーションを開催するとともに、学生一人ひとりに配置したアカデミック・アドバイザーによる丁寧な履修指導を行った。 4. 国際入試・国際バカロレア入試を経て入学した2019年10月入学者向けに、日本での生活に必要な知識や語学能力が不足している新入生に対して在学生在をチューターとして雇用し、国際部と連携の上、市役所や郵便局等での渡日前後の手続きなどサポートを着実に実施した。チューター向けには、事前のオリエンテーションを開催するなど、万全の体制でサポートすることができた。 5. 在学生の学習・生活支援に関して、授業担当教員、担任、アカデミック・アドバイザーで連携したモニタリング制度を実施した。在学生の実状把握のため、4月入学者へのヒアリングを実施し、実施後はプログラム教員への情報共有を行った。学部・学科横断型マッチング・トラックに進んだ学生向けには、マッチングアドバイザーを中心に、各学部助言教員や受入教員と連携しマッチング・履修指導を行い、学部での学習をサポートした。 6. 学年進行に伴い、開講授業科目を増加させ、教育を着実に実施した。留学生在が日本で就職できるように日本語能力を高めるための科目「キャリア・ジャパニーズ(JLPT対策)」を新規で開講した。また、卒業研究への準備科目となる「Research Seminar(ディスカバリー演習)」の概要等を決定し学生への説明会を開催したほか、2年次以降の「Independent Study(課題実践)」について内容・履修方法等の改善を図り、他学部にも開講を依頼するなど広く周知した。 7. 留学については独自の留学説明会を年2回開催し留学意識を啓発するとともに、実績として2年次生10人を短期留学プログラム(EPOK)により派遣した。タイにおいて、タマサート大学との共同授業や社会的企業の訪問など5日間の研修を専門科目として実施したほか、留学先として国際交流協定に関する検討を行った。インターンシップについては、ソーシャルイノベーションクラスター教員を中心に、事前・事後のサポート、単位認定を行った。また、キャリア支援として、キャリア・学生支援室主催の留學生向けの就職相談会を活用したほか、企業等と連携した勉強会を開催した。</td> </tr> </tbody> </table>	目標に関連する 年度計画の番号	取組	24-2	1. 広報・リクルートに関しては、台湾、タイ、マレーシア、韓国、インドネシア、フィリピン、ブルネイで開催された留学フェアに参加するとともに、アメリカや中国、インドネシアの高校等への個別訪問、岡山を訪問している海外の高校生への説明会、インターナショナルスクールでのカレッジフェアへの参加、国内18校等への個別訪問などの海外リクルート活動を行った。国内リクルートに関しては、入試説明会やオープンキャンパス、進学ガイダンスへの参加などを行った。その他、入試広報のため、ハワイやシンガポールの進学情報雑誌にプログラム情報を掲載した。また、英文ウェブサイトにも、教員や学生の声、授業風景などプログラムの活動状況が分かるよう記事を掲載し、充実を図った。その結果、国内入試はこれまで同様の出願者を集めたほか、国際入試(第1期)には、4月入学9人(出願倍率3.0倍)、10月入学23人(出願倍率2.3倍)、国際入試(第2期・10月入学)には62人(出願倍率3.0倍)の出願があり、合計で昨年より出願者が32人増え、4月入学及び国際入試(第2期・10月入学)の出願者は過去最高となった。	50-2	2. 2021年度からの新たな入試に関して、文系・理系の2種類に分けて募集・選抜することを決定し、入学者選抜方法の変更について公表(2年前予告)した。決定に当たっては、UAA(University Admission Administrator)の協力の下、県内SSH校(スーパーサイエンスハイスクール)を訪問し、理系志願者獲得のための情報収集を行った。変更に伴い、アドミッション・ポリシーを改正したほか、試験の日程や実施体制、科目等の具体的な検討を行い、ホームページなどで周知を図った。また、リーフレットや次年度の入試説明会チラシを作成し、これまでに出願のあった高校を訪問し、積極的な広報を行った。 3. 2019年4月・10月入学者の円滑な受け入れに向け、教務委員会及び学生支援委員会を中心に、これまでの反省事項を生かして種々検討の上、各種オリエンテーションを開催するとともに、学生一人ひとりに配置したアカデミック・アドバイザーによる丁寧な履修指導を行った。 4. 国際入試・国際バカロレア入試を経て入学した2019年10月入学者向けに、日本での生活に必要な知識や語学能力が不足している新入生に対して在学生在をチューターとして雇用し、国際部と連携の上、市役所や郵便局等での渡日前後の手続きなどサポートを着実に実施した。チューター向けには、事前のオリエンテーションを開催するなど、万全の体制でサポートすることができた。 5. 在学生の学習・生活支援に関して、授業担当教員、担任、アカデミック・アドバイザーで連携したモニタリング制度を実施した。在学生の実状把握のため、4月入学者へのヒアリングを実施し、実施後はプログラム教員への情報共有を行った。学部・学科横断型マッチング・トラックに進んだ学生向けには、マッチングアドバイザーを中心に、各学部助言教員や受入教員と連携しマッチング・履修指導を行い、学部での学習をサポートした。 6. 学年進行に伴い、開講授業科目を増加させ、教育を着実に実施した。留学生在が日本で就職できるように日本語能力を高めるための科目「キャリア・ジャパニーズ(JLPT対策)」を新規で開講した。また、卒業研究への準備科目となる「Research Seminar(ディスカバリー演習)」の概要等を決定し学生への説明会を開催したほか、2年次以降の「Independent Study(課題実践)」について内容・履修方法等の改善を図り、他学部にも開講を依頼するなど広く周知した。 7. 留学については独自の留学説明会を年2回開催し留学意識を啓発するとともに、実績として2年次生10人を短期留学プログラム(EPOK)により派遣した。タイにおいて、タマサート大学との共同授業や社会的企業の訪問など5日間の研修を専門科目として実施したほか、留学先として国際交流協定に関する検討を行った。インターンシップについては、ソーシャルイノベーションクラスター教員を中心に、事前・事後のサポート、単位認定を行った。また、キャリア支援として、キャリア・学生支援室主催の留學生向けの就職相談会を活用したほか、企業等と連携した勉強会を開催した。
目標に関連する 年度計画の番号	取組						
24-2	1. 広報・リクルートに関しては、台湾、タイ、マレーシア、韓国、インドネシア、フィリピン、ブルネイで開催された留学フェアに参加するとともに、アメリカや中国、インドネシアの高校等への個別訪問、岡山を訪問している海外の高校生への説明会、インターナショナルスクールでのカレッジフェアへの参加、国内18校等への個別訪問などの海外リクルート活動を行った。国内リクルートに関しては、入試説明会やオープンキャンパス、進学ガイダンスへの参加などを行った。その他、入試広報のため、ハワイやシンガポールの進学情報雑誌にプログラム情報を掲載した。また、英文ウェブサイトにも、教員や学生の声、授業風景などプログラムの活動状況が分かるよう記事を掲載し、充実を図った。その結果、国内入試はこれまで同様の出願者を集めたほか、国際入試(第1期)には、4月入学9人(出願倍率3.0倍)、10月入学23人(出願倍率2.3倍)、国際入試(第2期・10月入学)には62人(出願倍率3.0倍)の出願があり、合計で昨年より出願者が32人増え、4月入学及び国際入試(第2期・10月入学)の出願者は過去最高となった。						
50-2	2. 2021年度からの新たな入試に関して、文系・理系の2種類に分けて募集・選抜することを決定し、入学者選抜方法の変更について公表(2年前予告)した。決定に当たっては、UAA(University Admission Administrator)の協力の下、県内SSH校(スーパーサイエンスハイスクール)を訪問し、理系志願者獲得のための情報収集を行った。変更に伴い、アドミッション・ポリシーを改正したほか、試験の日程や実施体制、科目等の具体的な検討を行い、ホームページなどで周知を図った。また、リーフレットや次年度の入試説明会チラシを作成し、これまでに出願のあった高校を訪問し、積極的な広報を行った。 3. 2019年4月・10月入学者の円滑な受け入れに向け、教務委員会及び学生支援委員会を中心に、これまでの反省事項を生かして種々検討の上、各種オリエンテーションを開催するとともに、学生一人ひとりに配置したアカデミック・アドバイザーによる丁寧な履修指導を行った。 4. 国際入試・国際バカロレア入試を経て入学した2019年10月入学者向けに、日本での生活に必要な知識や語学能力が不足している新入生に対して在学生在をチューターとして雇用し、国際部と連携の上、市役所や郵便局等での渡日前後の手続きなどサポートを着実に実施した。チューター向けには、事前のオリエンテーションを開催するなど、万全の体制でサポートすることができた。 5. 在学生の学習・生活支援に関して、授業担当教員、担任、アカデミック・アドバイザーで連携したモニタリング制度を実施した。在学生の実状把握のため、4月入学者へのヒアリングを実施し、実施後はプログラム教員への情報共有を行った。学部・学科横断型マッチング・トラックに進んだ学生向けには、マッチングアドバイザーを中心に、各学部助言教員や受入教員と連携しマッチング・履修指導を行い、学部での学習をサポートした。 6. 学年進行に伴い、開講授業科目を増加させ、教育を着実に実施した。留学生在が日本で就職できるように日本語能力を高めるための科目「キャリア・ジャパニーズ(JLPT対策)」を新規で開講した。また、卒業研究への準備科目となる「Research Seminar(ディスカバリー演習)」の概要等を決定し学生への説明会を開催したほか、2年次以降の「Independent Study(課題実践)」について内容・履修方法等の改善を図り、他学部にも開講を依頼するなど広く周知した。 7. 留学については独自の留学説明会を年2回開催し留学意識を啓発するとともに、実績として2年次生10人を短期留学プログラム(EPOK)により派遣した。タイにおいて、タマサート大学との共同授業や社会的企業の訪問など5日間の研修を専門科目として実施したほか、留学先として国際交流協定に関する検討を行った。インターンシップについては、ソーシャルイノベーションクラスター教員を中心に、事前・事後のサポート、単位認定を行った。また、キャリア支援として、キャリア・学生支援室主催の留學生向けの就職相談会を活用したほか、企業等と連携した勉強会を開催した。						